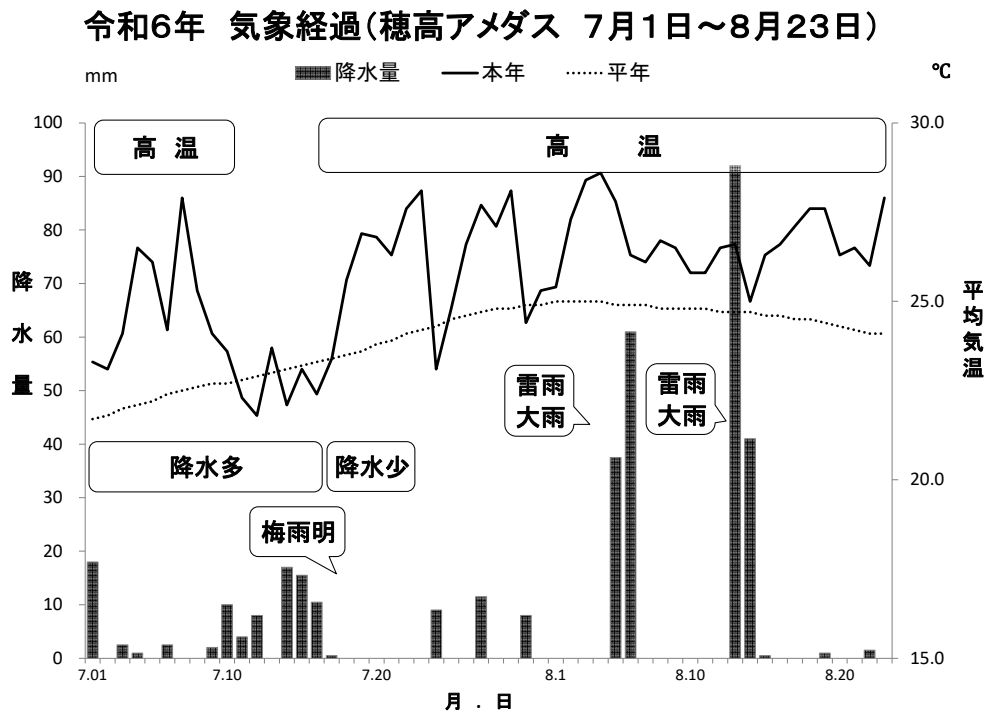


令和6年 作物技術普及情報 第16号

(水稻の生育状況、刈り取り開始予測他について)

1 気象状況



8月に入っても高温となっています。雷を伴う大雨の日もありましたが干ばつ傾向な地区もあります。

8月22日発表の1か月予報では、平年より高い（特に期間の前半）と予想されています。また、同日発表の高温に関する早期天候情報では、関東甲信地方は8月29日頃から「かなりの高温（平年より2℃以上高い）」になると予想されています。

2 水稻の生育状況について

- 出穂が7日程度早まっていることに加え、出穂以降も平年より2℃以上に高い高温が続いているため、成熟期は平年よりかなり早まることが予想されます。

8月23日現在の成熟期予測では、成熟期は平年より10～14日程度早まる（昨年並み）と予想しています。

5月15日植 標高540m の成熟期予測(8月23日現在)

品 種 及 び 苗 質		成熟期		
		登熟期間の気温		平 年
		平年並	平年より 2℃高	
あきたこまち	稚 苗	8月31日	8月28日	9月7日
コシヒカリ	稚 苗	9月11日	9月9日	9月22日

- 現地平坦地の生育状況は以下の通りと思われます。本年は出穂始めから穂揃いまでの日数が長く、株内でも登熟のばらつきが大きい模様です。

お盆前後のゲリラ豪雨で圃場の一部で倒伏が始まった圃場もあります。

お盆以降、穂いもち病が散見されますが、収量への影響は少ないと思われます。

8月26日現在の現地（平坦地）の生育状況

- ・ 早生品種（あきたこまち、美山錦等）
： 収穫直前～収穫開始
- ・ コシヒカリ
 - 4月末～5月初旬植：登熟後期～収穫直前
 - 5月上旬植：登熟後期
 - 5月中旬植：登熟中期～後期
 - 5月下旬植：登熟中期

3 水稻の刈り始め予測について

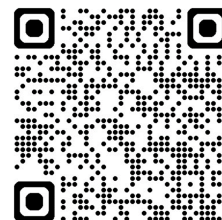
- 今後も高温が続き、成熟期がかなり早まることが予想されるため、刈り始め開始予測は【平年より2℃高温版】を提供いたします。施設の稼働計画や収穫計画にご活用ください。

※下表は8月23日現在の松本～塩尻方面の水田の コシヒカリ（稚苗植）の水稻刈り始め予測（2℃高温版）です。

	標高	刈り始め予測日（出穂期以降 平年より2℃高く推移した場合）						標高
		田 植 日						
		5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日	
コシヒカリ 稚苗	750m	9月7日	9月10日	9月12日	9月15日	9月19日	9月23日	750m
	700m	9月4日	9月7日	9月9日	9月12日	9月15日	9月19日	700m
	650m	9月3日	9月5日	9月6日	9月10日	9月14日	9月17日	650m
	600m	8月31日	9月2日	9月4日	9月7日	9月11日	9月14日	600m
	550m	8月28日	8月30日	9月2日	9月4日	9月7日	9月11日	550m

安曇野～筑北方面の水田や他の品種・苗質・標高・田植日については、松本農業農村支援センター 技術経営普及課のホームページに掲載した「水稻刈り始め予測（2℃高温版）8月23日現在」をご覧ください（右下のQRコードからもホームページに進めます）

水稻刈り始め予測は松本農業農村支援センター技術経営系のホームページで随時更新していますので、最新版をご利用下さい。



4 収穫の注意点について

- 平坦地の早生品種は収穫適期を迎えますので、天候が回復して圃場条件が整い次第、収穫を進めるようにお願いします。
- 平坦地のコシヒカリは、5月初旬までに田植された圃場の登熟がかなり早まっており、今週末から収穫が開始されると思われます。
- 今年は刈り遅れると胴割れが多発する恐れがある危険な状況です。刈り遅れで胴割れになるよりは、青が少し多くても収穫を進めた方が品質は安定します（網目を上げて、色選を通して、胴割れは抜けません）。

刈り取り開始予測を参考に、籾の水分や帯緑色籾歩合を確認して、田植えの早い圃場から早めに刈り取りを進めるようにお願いします。

- 台風等によるフェーン現象で異常高温・極端な乾燥条件になると、止葉が急に枯れ上り、白未熟・胴割米や、充実不足による細身の発生が助長されます。

落水中の圃場や、今週から落水を開始する圃場が多いと思いますがフェーンが予想される場合は、落水中でも入水（走水）をお願いします。

今週半ばに台風10号が接近し、フェーンも予想されるので、今後の天気予報にご注意ください。

5 大豆の管理

管内の大豆の生育は、6月播種で莢伸長初期、7月上～中旬播種で開花終期、7月下旬播種で開花盛期です。生育は概ね順調ですが、降雨と高温の影響で、平年より生育量が大きく徒長気味の生育になっており倒伏が心配されます。また湿害症状が目立つ圃場もあります。

葉の反転等の干ばつ症状は見られていませんが、今後の天候により、まとまった雨が期待できない状況になると、干ばつ害を受ける事も予想されます。

これから水稻の収穫作業で極めて忙しい時期を迎えますが、大豆の葉のしおれが目立つ場合は、必ず灌水を実施するようにお願いします（著しい干ばつによる減収・小粒化を避けるため）。